

茨城大学学報

第350号

令和2年4月～令和2年5月

新型コロナウイルス感染症から学生生活を守る！

茨城大学 Ibaraki University **緊急支援パッケージ**

緊急経済支援	学修支援・学生生活相談
<p>生活困窮学生向けに独自の緊急経済支援奨学金創設</p> <ul style="list-style-type: none">◆200人に5万円を給付◆喫緊の生活資金として最大15万円を貸与	 
<p>高等教育修学支援新制度 対象外の大学院生・留学生等 授業料減免で支援</p>	<p>遠隔授業の受講環境が不十分な学生に ノートPCを貸出</p> <p>担任教員やカウンセラーによる 細やかな相談対応</p>
 <p>下級生のメンターや遠隔授業のアシスタント 働く場の提供を通じた経済支援</p>	<p>不安なこと、心配していることはひとりで悩まずぜひ相談してください。</p>
<p>その他、国の給付金や高等教育の修学支援新制度、自治体・各種団体等による奨学金などを通じて誰ひとり取り残さず学生生活の継続を支援します。</p>	<p>◆本パッケージには現在準備中の施策も含まれます。詳細が決定し次第、教務情報ポータルやメールを通じて随時ご案内します。</p>

※各支援は条件や感染防止対策等に準じて段階的に検討しています。

学生の学びを止めないために・・・

INDEX

- ◆ 教育の質保証の取り組みと成果をビジュアルで紹介するパンフレットを発行
- ◆ 茨城大学台風19号災害調査団中間報告書を公開
- ◆ 太田寛行学長が就任 入学式中止に伴い新入生へメッセージ
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大の影響に係る「緊急学生支援パッケージ」発表
- ◆ 図書館が4年生・大学院生向けに資料送付サービスを開始
- ◆ 協同組合ネットいばらきから学生たちへ食料の支援

茨城大学広報室

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 教育の質保証の取り組みと成果をビジュアルで紹介するパンフレットを発行

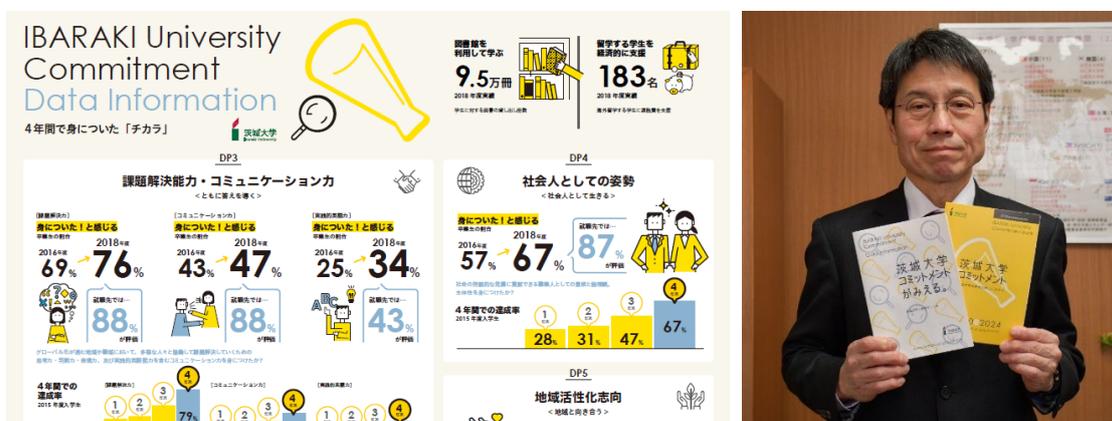
このたび、本学における教育の質保証の取り組みと成果をビジュアルデザインによってわかりやすく紹介したパンフレット「茨城大学コミットメントがみえる。」を発行しました。

本学は文部科学省の平成 28 年度「大学教育再生加速プログラム (AP)」テーマV「卒業時における質保証の取組の強化」に採択され、授業・カリキュラム・学部・大学全体という 4 つの階層による質保証システムを体系化してきました。また、学生の入学時、各学年時、卒業時、卒業 3 年後のアンケート調査に加えて就職先の企業にも調査を行い、充実した教学データベースの構築を進めています。さらにこうした質保証の取り組みへの学生・教職員・地域住民の理解と参加を促進するため、「茨城大学コミットメント」というコンセプトを設け、入学式の後に本学のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）や全学的なカリキュラムへの理解を図る「コミットメント・セレモニー」というイベントを行うなど独自の取り組みを実施しています。

今回作成したパンフレット「茨城大学コミットメントがみえる。」は、A2 サイズを 8 つに折った作り。折りたたまれた紙面を開くごとに、本学のディプロマ・ポリシーや「茨城大学コミットメント」の説明、質保証システムの概説、そして A2 サイズいっぱい記された教学データが目飛び込むという構成になっています。教学データを記した面では、グラフやイラストを効果的に使ったデザインを施し、ディプロマ・ポリシーで掲げた 5 つの基盤学力の 4 年間での達成率や社会に出てからの活用度、その他の教育環境や学生生活に関する代表的なデータを紹介しています。

学長は、「AP 事業の 4 年間の取り組みは茨城大学の教育改革を最前線で推進するものだったが、実際にポジティブな成果がデータで示されていることを、楽しみながら理解してもらえるパンフレットができた。学生たちにも関心をもってもらい、主体的な学修をさらに強化した教育システムを展開していきたい」と語っています。

パンフレットは新入生や連携している企業・自治体の関係者などに配布する予定です。また、「茨城大学コミットメント」の WEB ページにて[オンライン版](#)を公開しています。



◆ 茨城大学台風19号災害調査団中間報告書を公開

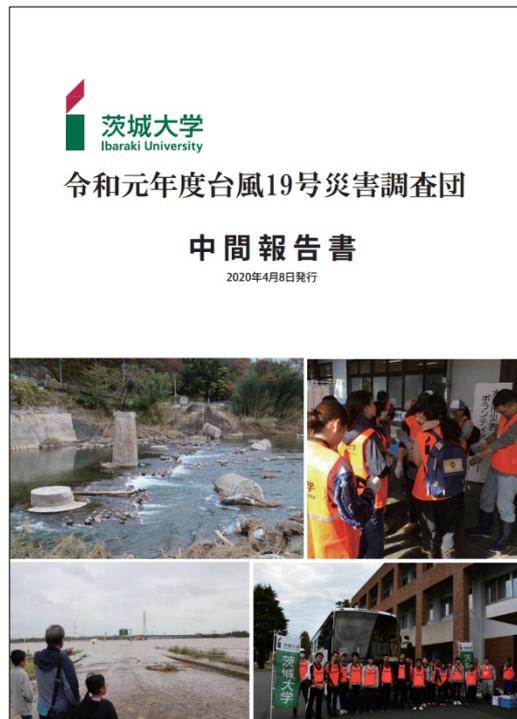
昨年（2019年）10月に発生した台風19号による災害の調査を進めている「茨城大学令和元年度台風19号災害調査団」が4月8日、現状の調査状況を紹介した中間報告書を発行しました（PDF版のみ）。

全国各地に甚大な被害をもたらした台風19号の発生後、本学においては被災した学生・教職員・受験生への支援、災害ボランティア活動を希望する学生の支援を進めるとともに、同調査団を発足させました。調査団では「被災過程解明」「農業・生態系」「情報伝達・避難行動」「住民ケア支援」「文化財レスキュー」という5つのグループでの計画研究をスタートし、その後、学内での公募を経て、災害支援に対する自治体の情報発信、洪水に対する地域強靱化、中小企業の事業継続計画（BCP）の検証といったテーマの調査も加わり、計8テーマで進行しています。

調査団では、昨年12月に第一回報告会を開催するとともに第一回報告書を公開。その後、2019年度末に中間報告会を開催する予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため報告会開催をとりやめ、このほど報告書のみ発行しました。

報告書では、災害発生から間もない第一回報告書の時点では十分に進展できなかった情報伝達や住民ケアなどに関わる調査の結果や状況も紹介。このうち住民ケアグループの報告では、中学校や高等学校の関係者へのヒアリングから、「住民ケア支援はまず大人達を対象に提供され、続いて子ども達という優先順位になりやすいことが見えてきている」としています。

調査団では、発災から1年となる2020年秋を目処に最終報告書を発行する予定です。



◆ 太田寛行学長が就任 入学式中止に伴い新入生へメッセージ

令和2年4月、太田寛行学長が新たに就任しました。今年度の入学式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施されず、学長からのメッセージが新入生全員に送付されました。

太田寛行学長から新入生へのメッセージ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本来ならば、入学式の会場で皆さん全員を迎えて祝辞を述べる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、皆さんへの感染リスクをできる限り減らすことを考えて、入学式を中止しました。式典を楽しみにされていた皆さんとご家族の気持ちを思うと、とても辛い判断でしたが、どうぞご理解ください。

さて、本学に入学された皆さんに、黄色の小冊子（“茨城大学コミットメントブック”）をお送りしました。ご覧いただけただしょうか。この小冊子は、学生と教職員だけでなく、地域の人たちも含めた3者間で結ぶ「学びの約束」を記したものです。最後まで読み通して、高校とは違う大学での学びをイメージしてください。私が強調したいことは、大学での学びは学生個人のためではなく、社会にも影響を及ぼす公的なものということです。例えば、学びの集大成である卒業研究は、答えがまだ見つかっていない未知・未踏の研究分野への挑戦とも言えます。その作業の過程には、教職員との協働だけでなく地域の人たちや国内外の人たちが関わっています。皆さんの研究成果が地域に還元されれば地域は変わり、世界の人々にも影響を及ぼす展開になることもあります。

大学は、社会を先進化させるエンジンとしての役割だけでなく、高い倫理観をもち持続可能な社会の担い手となる市民を育てること、豊かな人間性をもち、多様な文化と価値観を尊重する人間を育てる場でもあります。皆さんが、4年後、専門性を身につけるだけでなく、市民、人間として自立して生きる姿を想像して、私たち教職員は皆さんを応援していきます。

◆ 新型コロナウイルス感染拡大の影響に係る 「緊急学生支援パッケージ」発表

新型コロナウイルス感染拡大に係る緊急学生支援のパッケージを5月8日に発表しました。

本学では、4月28日～30日に全学生に対して生活状況についての緊急調査を行ったところ、約半数にあたる3,935件の回答があり、このうちアルバイト料や仕送り等の収入について半分程度あるいはそれ以上の減少があったかを尋ねた質問では、1,815人(46%)が「(収入の減少が)あった」と回答しました。

こうした状況を受け、本学では、遠隔授業の受講環境が不十分な学生へのノートPCへの貸し出し、カウンセラー等による相談対応といった従来の支援に、生活困窮学生の当面の生活資金とするための本学独自の緊急支援奨学金などを新たに加え、それらの支援内容を、緊急支援パッケージとしてまとめました。

このうち、生活困窮学生に対する緊急経済支援奨学金については、給付型奨学金制度を新たに設け、生活が困窮した学生200人を対象に、一人あたり5万円の奨学金を支給します。また、貸与型奨学金制度もあわせて新設し、15万円を上限に奨学金として貸与します。これらの財源には、ウェルシア薬局株式会社からの支援金や茨城大学基金の修学支援基金事業に寄せられた寄附金などを活用します。

その他、下級生のメンターや遠隔授業のアシスタントといった勤労の場の提供による経済支援制度などを用意し、国や地方自治体の支援制度などとあわせて、学生の安心・安全な学生生活を支援します。

本学の太田寛行学長は、「多くの学生が経済的・精神的に厳しい状況に置かれている中、すべての学生が自由・自発的に行動できる学びの場を提供するため、今回このような緊急支援を設けた。収入が減った学生の数の多さに対し、まだ不十分な点もあるが、国や自治体等による支援と組み合わせ、学生たちの誰一人取り残すことなく、安心・安全な大学生活を提供していけるよう努めたい」と語っています。

緊急学生支援パッケージは、今後も感染症の状況や財源に鑑みて継続的に検討される予定です。

新型コロナウイルス感染症から学生生活を守る！

茨城大学 緊急支援パッケージ

緊急経済支援	学修支援・学生生活相談
<p>生活困窮学生向けに独自の緊急経済支援奨学金創設</p> <p>◆200人に5万円を給付</p> <p>◆喫緊の生活資金として最大15万円を貸与</p>	<p>遠隔授業の受講環境が不十分な学生にノートPCを貸出</p> <p>担任教員やカウンセラーによる細やかな相談対応</p>
<p>高等教育修学支援新制度対象外の大学院生・留学生等</p> <p>授業料減免で支援</p>	<p>不安なこと、心配していることはひとりで悩まずぜひ相談してください。</p>
<p>下級生のメンターや遠隔授業のアシスタント</p> <p>働く場の提供を通じた経済支援</p>	<p>◆本パッケージには現在準備中の施策も含まれます。詳細が決定し次第、教務情報ポータルやメールを通じて随時ご案内します。</p>

>> 各種支援は今後も感染症の状況や財源に鑑みて継続的に検討していきます。

新型コロナウイルス感染症拡大に係る緊急学生支援パッケージ

◆ 図書館が4年生・大学院生向けに資料送付サービスを開始

5月11日から、学部4年生と大学院生を対象に「図書送付サービス」を開始しました。

本学では、新型コロナウイルス感染症への対応として、4月24日から学生の登校が原則禁止となり授業はオンラインで行っていますが、卒業論文などの作成にあたり、図書館の資料が自由に借りられない状況への懸念の声があがっていました。

本サービスは、学部4年生と大学院生を対象とし、1人1回の申請で5冊まで借りることができます。学生の金銭的負担がかからないよう学内で予算措置を進め、送料は大学負担としました。返却は暫定的に6月30日までとしています。今後の入構規制の状況を見ながら柔軟に判断していく予定です。

本学図書館担当の半澤智絵学術情報課長は、「現時点では学部1～3年生が利用できない状況のため、今後入構規制がある程度解除されたあとは、特に新入生へのサポートも拡充したい。学生のみなさんの学びや研究をとめないよう、大学の図書館としてできる限りの対応を柔軟にしていく」と述べました。



本の発送準備をする図書館職員



◆ 協同組合ネットいばらきから学生たちへ食料の支援

茨城県内の JA や生協などの協同組合である「協同組合ネットいばらき」が、このほど新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に厳しい状況に置かれている大学生や専門学校生への食料の寄附を開始し、茨城大学でも 1200 人を超える多くの学生が白米や野菜、カップ麺などの支援を受けました。

同団体が茨城県内の大学や専門学校を通じて食料支援の希望を受け付けたところ、本学の学生 1271 人を含む計 1715 人から申し込みがあったということです。申し込みに際して寄せられた学生からのメッセージでは、「収入が絶たれてしまい、食費を削らざるを得ず、数日に一度は 1 日に 1 食しか食べないことがある」「今まで生活費はバイトで賄っていたがそれが全てなくなり、卒業まで学生生活を続けられるか不安」といった厳しい状況がうかがえました。

5 月 29 日に第一回の配布が行われ、同団体の担当者が水戸キャンパスの学生寮などを訪れ、白米やインスタント麺、野菜などが届けられ、学生は抱えきれないほどのたくさんの食料品を笑顔で受け取りました。

この「緊急『食の支援』」は、今後月に 1 回程度のペースで実施される予定です。



食料品を笑顔で受け取る学生



寄付された野菜や食料品